

新しい薬学をめざして

Vol.41 No.8
2012.12.1

発行 新薬学研究者技術者集団

〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8 E-mail shin-yakugaku@tea.ocn.ne.jp
(有)大阪ファルマプラン・あおぞら薬局 気付 郵便振替口座 01090-8-16463
TEL 06-6477-8080 (担当 稲垣) FAX 06-6477-8082 URL http://pha.jp/shin-yakugaku/



福島がいま—新たな生活に入って

佐藤政男

福島県は全国で3番目に広い面積を持ち、県都の福島市は29万人、いわき市34万人、郡山市33万人、会津若松市12万人などの都市が存在し、事故原発周辺の双葉郡9町村、8.7万人、南相馬市7万人など人口約200万となっている。本県は、今回の東電福島第一原発がある太平洋に面した浜通り、東北新幹線が通る中通り、新潟県との間の会津の3つに分けられ、気候、風土もかなり異なる。原発周辺の太平洋岸の雪の降らない町から大雪の会津地方（汚染なし）への避難者に雪かきの講習会を開催やスタッドレスタイヤ装着の指導というようなことがニュースとなる。一方、福島市は原発から約60km離れているが、避難対象地域にはなっていないものの比較的放射能レベルが高く、子育てをしている家庭を中心に、父親を残して県外・県内へ避難されている方が多くいる。同時に市内に原発地域から避難されている方が多くおられる。全体として人口は減少している。2012年4月では私の子どもたちがお世話になった小学校のクラス減少があり、保育園は例年希望者100人が70人だったという。それでも最近になってから苦悩の選択で戻って来られ、一部回復している面があるという複雑な状況のようだ。

そのような中で私は10月末に徳島市民から再び福島市民となった。総選挙で「脱原発」が争点となっているが、原発事故による具体的影響や進行中の状況を伝えるリアルな報道は他県ではあまり見られなくなった。しかし、福島県では住民・自治体（人員不足の公務員）の苦悩・格闘が続いている。その一端を紹介したい。

原発人災による影響の状況は、まだ新生活が短いのでつかみ切れていないが、徳島と違うところは、毎日の新聞、テレビの多くが「原発」関係の記事で占められていて、事故は収束するどころか、進行中と実感させられる。天気予報の後には、その日の各地の放射能測定値が表示

目次

| | | | |
|----------------------------------|-------------------------|-----------------------|---------------|
| □福島がいま—新たな生活に入って | □今日も明日も日曜日(24) | 三原啓子……………166 | |
| 佐藤政男……………143 | □国際シンポジウム「戦争と医の倫理」に参加して | 寺岡敦子……………167 | |
| □話題：オランダが“No cure No pay”スキームを導入 | 遠藤浩良……………145 | □「第14回薬害根絶フォーラム」に参加して | 藤岸伊知郎……………168 |
| □ミニゼミ：予防接種を取りまく最近の状況 | 寺岡敦子……………147 | □書籍：『ジフテリア予防接種禍事件』 | ……………170 |
| □ミニゼミ：薬学系分野の女性パワーは生かされてきたか | 三原啓子……………153 | □第4回運営委員会報告 | ……………171 |
| □こだま2 | 八幡朋子……………165 | □第5回運営委員会報告 | ……………172 |